

## 《木の顔って どんな顔?》

左の写真、どんな顔に見えますか。大声出す人間？  
それとも、ゴリラが両手をあげて、挑んでいる顔？ 平  
和公園の木に、向台保育園4、5歳児たちがつくった（テー  
プで貼りつけ）自慢の顔です。

右の顔は、優しくほほえむ木のビーナス嬢か  
と思われる面々。

2月28日。木を顔にしたらこんな面白い表  
情が。子どもたちの発想のすばらしさ！  
「鼻水がたれているみたい。」「目を大小にした。」「  
まゆの形を変えた。」「上の葉を帽子にした。」「穴  
が歌っているみたい。」「口がたてながでおもしろ  
い。」など、みんなが、自慢の木の顔の説明を  
しました。よその保育園児たちが寄ってきて、  
貼りつけてしまう場面も。それにしても、子ども  
子どもたちはみんな、笑顔でしたよ。



ヒロシマからフクシマへ  
肥田舜太郎 講演会

3月16日（土）受付1時半

グリーンカレッジホール 講演2時～4時

（三田線志村三丁目 旧勤労福祉会館4F）

申込 FAX：3960-6052

mail:info@npo-soe.jp

残席有  
申し込み  
受付中

ダンボール・生ゴミで  
簡単、堆肥づくり（無料）

定員30人

講師・生ゴミリサイクル専門家講師蓮沼浩子氏  
3/23（土）

2時～4時 エコポリスセンター視聴覚ホール

持ち物：軍手、新鮮生ゴミ

申込 TEL：5970-5656

板橋区協働推進係（エコポリ無料バス有 要確認）

# 放射線の内部被ばくから 体を守る生活の仕方



徳丸小学校5年  
3クラス  
2月27・28日、3月7日



徳丸小5年生は、事前アンケートで、様々な知り

たいこと、疑問に思っていることなどを答えてくれました。下表はその結果で、一番多かったのは他の学校と同じように「自分で守れる方法があれば知りた



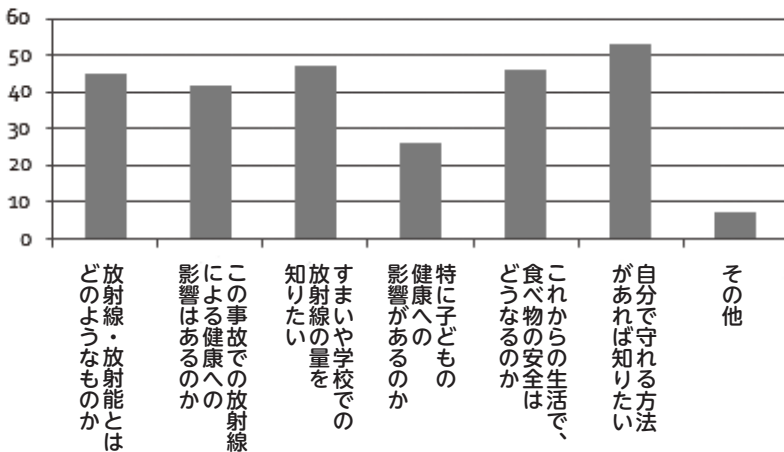
い。」でした。また、学校や家での放射線の量を知りたがっていました。

自由記述では、「放射線によって、死ぬか生きるか。」「マスクは放射線を通すか」「なぜ、放射線は各地に飛ぶのか。」など、いままで知りたかったことを率直に出していました。これから努力することのトップが発酵食品を食べるでした。

## 放射線から体を守る生活の仕方 事前アンケート

板橋区立徳丸小学校5年87名

### 今知りたいこと・学びたいこと

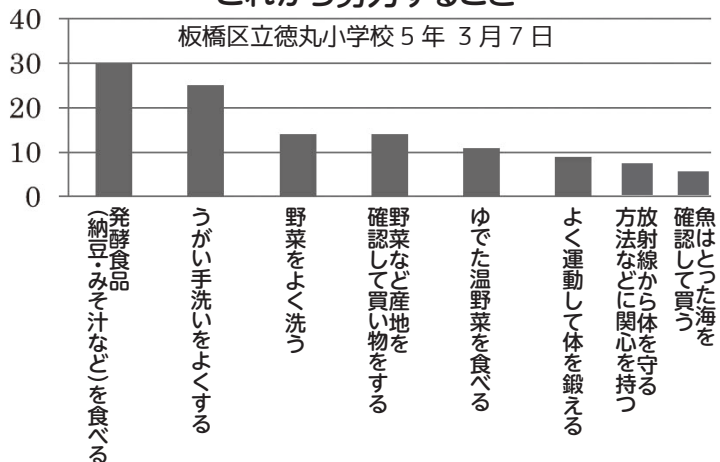


**子どもたちの感想**「放射線の量や放射線がどのように体の中に入るのか、放射線からの守り方が分かってとても勉強になった。」「放射線が半分へるのに、何十年かかるかが分かった。」「教室にも放射線があることが分かった。」

**講師スタッフの感想** 放射線から身を守るにはどうするか、子どもたちと一緒に”はかるくん”を使って測定しながら、体験的に学び、気づきを深めることができました。震災から間もなく2年のこの時期に、子どもたちと私も真剣に放射能と自分の生活を見直す貴重な時間になりました。」

## これから努力すること

板橋区立徳丸小学校5年 3月7日



# —湖上を巡回するミサゴに見とれた 野鳥観察会—

かわいいモズの姿にくぎ付けの参加者たち



板橋野鳥クラブ・金沢クラブ  
・センスオブアース共催

3月2日(土)

場所 トトロの森—狭山湖(山口貯水池)  
と多摩湖(村山貯水池)

春一番の吹く、初春、毎年定例の合同共催の野鳥観察会が開かれました。

参加者は、子どもから青年・学校の教師、校長、社会人・野鳥観察愛好者などおよそ50名。雲ひとつない晴天に恵まれましたが、風が強く野鳥が現れてくれるか、心配でした。しかし、集合場所の西部球場駅前に、早くもトビが出迎えてくれました。10時30分板橋野鳥クラブの会長の栗林さんの解説のもと、観察が始まりました。

## マガモの群れ



## モズ



	観察した鳥	生態の様子
1	ツグミ	3歩、歩いては止まる。というしぐさが滑稽でした。
2	マガモ	(60~70羽)、コガモ(50~60羽) - 湖畔の観察もままならないほど風の強い中、そろって北風に向かって泳いでいた姿を見て、たくましさを感じた。
3	カワウ	体がスリムで黒く、くちばしが細長く、いわゆる「う」の仲間で、潜ったら、しばらく(5分ぐらい?)は出てこないたくましい川鳥です。この日、潜ったまま、姿が見つかりませんでした。

4	シメ	冬鳥で嘴が太くて短い。落葉を動かして虫を探しているようでした。
5	メジロ	背はウグイス色で目の周りが白い輪で目が目立つ。
6	スズメ・	たくさん、灌木の周囲を飛び回っていた。
7	カラス・	数としては少ない感じがした。
8	シジュウガラ	スズメより少し小さくかわいい姿でこずえの上にあった。
9	キジバト	姿を見た
10	カンムリカイツブリ	頭の上の冠羽が後ろに伸びていました。
11	シロハラ	腹が白く、落葉をつついて虫を追い出しているようでした。
12	アオジ	声だけ
13	ミサゴ	多摩湖の周囲の森の上を大きく旋回していた。猛禽類の姿で初心者には、とびなどと見分けが難しく、参加者は望遠鏡に釘づけになっていた。
14	ジョウビタキ(オス)	スズメぐらいの大きさと、頭が白くかわいい感じ。

玉湖神社の下で楽しい昼食—北風も当たらず、暖かく春を感じました。



雑木林のシロハラ

#### センスオブアースの参加者

春一番の風の中、思ったより、多くの野鳥を観察することができました。寒さに負けず、たくましく生きている姿に感動しました。



多摩湖で真剣に観察する参加者

#### センスオブアースの参加者

「年1回の合同観察会が楽しみでした。板橋野鳥クラブが案内して下さるので、安心して、ついていけます。今回は3月2日の春一番の強風が吹く日でしたが、たくさんの野鳥のかわいい姿に出会えて、感動しました。シロハラやモズなど、とても可愛く、こんな生きものが生息していることを体感し、自然の崇高さを感じ心が透き通る気がしました。」JT/S

#### 発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052  
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp